

令和5年度 静岡市 英語教育改善プラン

目標

異なる文化を持つ人々と自信を持ってコミュニケーションをとることができ、地元への愛情を持ちながら国際的に活躍できる子どもを育てる
全小学校で、5、6年生の授業における、児童の英語による言語活動時間の割合が50%以上になることを目指す

1. 現状

①授業中に言語活動を行っている学級数の増加
2021年度・・・83.6%
2022年度・・・95.7%
(5、6年生集計)

②「CAN-DOリスト」の形式による学習到達度目標を児童・保護者と共有する学校の割合が増えた。
2021年度15.5%
2022年度65.1%

①・・・英語の授業以外でALTと効果的にかかわること
2021年度76.2%
2022年度41.0%

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

2. 分析

①-1 小学校外国語専科教員を市内全小学校に配置した。
①-2 年間3回の小学校外国語専科教員研修会で、好事例や目指す授業像の共有を行った。
①-3 GET（グローバルイングリッシュティーチャー）が授業に加わり、やり取りのモデルが示されたり、英語で発話する機会が増えたりした。
② 小学校外国語専科教員研修会の中で、子どもとCAN-DOリストをどのように共有するかを示し、CAN-DOリストの活用方法について共通理解を図った。

①-1外国語の授業以外で、ALTが子どもたちとどのように関わるかということについてのアイデアが不足している。
①-2市内ほとんどの小学校で、小学校外国語専科教員が授業を担当することで、担任や学校全体でALTと関わってほしいという意識が低下した。

3. 施策・事業

①-1 引き続き、小学校外国語専科教員を市内全小学校に配置する。
①-2 昨年度3回だった小学校専科教員研修会を5回に増やし、言語活動の充実についての研修を行う。
①-3 教員とGETがともに学ぶ機会を設定しGET研修の充実を図る。
② 小学校外国語専科教員研修会において「CAN-DOリスト」活用についての好事例を紹介をしたり、「CAN-DOリスト」を基に情報共有をしたりする機会を引き続き設定していく。また、「CAN-DOリスト」とパフォーマンステストを連携させ、更なる活用方法を研修会を通して伝えていく。
①-1イングリッシュデイ（月1回生活の中でできるだけ英語を使った会話に挑戦してみる日。）を効果的に用いて、児童だけでなく、学校全体がALTと関わる場面を増やす。そのためにALTの研修会で、好事例を紹介したり、よりよい活動について情報交換を行う。
①-2 小学校外国語専科教員研修会において、ALTの活用についての好事例を紹介し、学校全体でALTと関わるよう促す。

令和5年度 静岡市 英語教育改善プラン

目標

「異なる文化を持つ人々と自信を持ってコミュニケーションをとることができ、地元への愛情を持ちながら国際的に活躍できる子どもを育てる。」

全中学校で、授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合が50%以上になることを目指す

1. 現状

改善が進んだ点

①授業における、生徒の英語による言語活動の占める割合が増加した。
2021年度58.3%
2022年度81.1%

②CAN-DOリスト形式による学習到達度目標を児童・保護者と共有する学校の割合が増えた。
2021年度30.2%
2022年度46.5%

③CEFR A1レベル以上、またはA1相当以上の英語力を有すると思われる生徒数が増加した。
2021年度46.7%
2022年度51.7%

未だ改善が必要な点

①部活動、希望する生徒に対する個別指導などにALTが参画している
2022年度83.7%

2. 分析

①対面・オンラインのハイブリッドで行われた市内教員悉皆の授業研究会において、言語活動を通した指導の授業例を示した。

②-1 市内全中学校に、CAN-DOリストの提出を求めた。

②-2 授業づくり研修（希望研修）において自校のCAN-DOリストをもとに、情報共有が行った。

②-3 市内教員悉皆の授業研修会において、活用についての周知を行った。

③ ①②を実施したことにより、言語活動を通した授業が少しずつ市内中学校に浸透し、英語力をもつ生徒の割合が微増した。

①外国語の授業以外で、ALTが子どもたちとどのように関わるかということについてのアイデアが不足している。

3. 施策・事業

①-1 市内教員悉皆の授業研究会において、引き続き言語活動を通した指導の授業例を示していく。
①-2 対面、オンラインの市内教員悉皆の授業研究会において、中学校外国語科導入期で小学校外国語科での指導を踏まえた指導を行うよう周知していく。

②-1 引き続き市内全中学校に、CAN-DOリストの提出を求めていく。

②-2 引き続き、授業づくり研修（希望研修）において自校のCAN-DOリストをもとに、情報共有を行っていく。また、「CAN-DOリスト」とパフォーマンステストを連携させ、更なる活用方法を研修会を通して伝えていく。

③ ①②を継続して行うことで、増加すると考えられる。

①-1 イングリッシュデイ（月1回生活の中でできるだけ英語を使った会話に挑戦してみる日。）やイングリッシュカフェ（昼休みや放課後にALTが自国の文化や風習について生徒と話をする場）を効果的に活用していく。そのために各校から好事例をあげてもらい、他校へ広めて情報共有を図る。

①-2 ALT研修で、授業以外の場で生徒とどのように関わるかなどの情報交換をする。

令和5年度 静岡市 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーション活動(授業等)を通じて英語学習における自己の課題を整理し、自律的な取組(授業外)において自己の英語力の調整を図る生徒の育成 (課題認識→自己調整した生徒の割合: 50%)

1. 現状

改善が進んだ点

- ①・・・CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合
2021: 95%
2022: 100%

未だ改善が必要な点

- ①・・・スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合
・「どちらか一方を実施」にとどまっている。
- ②・・・授業における、生徒の英語による言語活動の割合
・特に50-75%の使用割合が少ない(10%)
- ③・・・英語教育に関する小学校・中学校との連携状況および取組内容

2. 分析

- ①・・・英語話者との協働機会の増加、および、各種研修への参加によるスキルアップ (高水準を維持できている)

- ①・・・スピーキングテストとライティングテストを各科目で振り分けている傾向にある。
- ②・・・特定の集団や科目における実施。(75%以上の使用割合は全国上位レベル)
- ③・・・市立であることを生かした取組がこれまで積極的に行われていなかった。また、「中高における指導の継続」の検討が不十分であった。

3. 施策・事業

- ①③・・・高い英語力・中高における学びの接続の視点を有する英語教員の育成
 - ・異校種で行われる研修会への横断的な参加
 - ・英語の授業等における中学生と高校生の交流
 - ・短期海外派遣事業の継続

【留意事項】

英語力の維持・向上に資する施策の検討 (生徒のみならず教員に対しても、実践的なコミュニケーションの機会を提供)

- ①・・・ICT活用による、時間や場所にとらわれないテスト方法の検討と実施

- ・全国調査結果を踏まえ、市教委と学校で今年度の静岡市の目標を設定・共有
- ・目標: 一人一台端末等のICT機器を活用し、開設する科目の50%以上で両テストを実施

【留意事項】

両テストを実施するにあたり、一つの領域を他の領域と結びつけた統合的な言語活動の上に成り立つアウトプットテストを作成

- ②・・・振り返りシート等による言語活動の把握

- ・授業における言語活動の割合を可視化
→言語活動をより多く取り入れた授業改善に役立てる

【留意事項】

高等学校における言語活動のねらい(目的・場面・状況・相手の反応等を踏まえ、適切な語彙や表現を選択して活用)を学習者と共有